応用倫理学を踏まえた医学研究の推進

今井道夫　哲学・倫理学教室

生命倫理学、それに環境倫理学も取り込んだいわゆる応用倫理学研究を踏まえて、先端医学研究や臨床試験の枠組づくりに寄与する。現在、通用している法律や指針にそっていかに研究や技術開発を進めていくかを倫理的、法的観点から検討する。それにとどまらず、新たな立法や指針策定にむけての提言も視野に入れる。

当教室では医学哲学、生命倫理学、医学教育学を研究している。これまで、医学教育の中でそれら研究を生かす努力を続け、成果をあげてきた。これからは、医学研究の適正な発展をはかるための枠組づくりにもかかわっていきたいと考えている。主な活動として、次の2つがあげられる。

（1） 医学の適正な発展を図るために、すでに倫理にかかわる各種の法律や指　針が定められている。しかし、それらを正しく把握し、それらに則って医学研究をすすめることは必ずしも容易ではない。適正な研究を推進するために倫理学・法学の立場か研究者に助言し協力することをとおして、研究の枠組づくりの一翼を担いたい。また、現在の法律や指針には検討すべき点も多く、改善や新たな立法、指針の策定に寄与することも視野に入れる。

(2) これまで、『バイオエシックス入門』、『生命倫理学入門』といった教科書を刊行した実績がある。また『生命倫理学事典』執筆、アメリカの大部の『生命倫理百科事典』邦訳を分担してきた。医学・生命科学研究をめぐる生命倫理学、そして一部は環境倫理学の諸問題にかかわる、有益な解説、事典・資料集の編纂を試みたい。

連絡先　哲学・倫理学教室　内線2590，　2591